

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

18. 症状および兆候

文献

内藤 寧, 勝山 詠理ら. 前十字靭帯再建術後の柴苓湯の有用性 *日本スポーツ整形外科学会誌* 2024; 1(2), 185-6.

1. 目的

柴苓湯投与の有無により前十字靭帯再建術後の腫脹・疼痛・炎症に違いが生じるかを評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

記載されていない (筆頭著者の所属は東京都済生会中央病院整形外科、日本)。

4. 参加者

2020年4月～2022年1月までに前十字靭帯再建術を行った13歳以上の男女 15名

5. 介入

Arm 1: ツムラ柴苓湯エキス顆粒 1回 3.0g を 1日 3回 (9g/日)、前十字靭帯再建術後 1日目から 7日間内服 6名

Arm 2: 非投与 9名

6. 主なアウトカム評価項目

評価項目は膝蓋骨直上の大腿周径とした。

7. 主な結果

15名を解析対象とした。Arm 1では、膝蓋骨直上の大腿周径 (術後 7日目-術後 1日目) が Arm 2と比較して有意に縮小していた ($P=0.046$)。Arm 2ではむしろ周径が増えている症例もあった。術後 1日目と術後 7日目の差を術後 1日目の値をベースラインに共分散解析を実施したところ、Arm 1の方が有意差 (P 値 記載なし) をもって改善していた。

8. 結論

前十字靭帯再建術後に柴苓湯を投与することで術後の腫脹が軽減する可能性がある。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

前十字靭帯 (ACL) 再建術後の疼痛や関節可動域制限の原因となる関節内出血や採腱部・骨孔周囲の皮下出血に対する柴苓湯の有効性を膝蓋骨直上の大腿周径を指標として解析した RCT である。これまで漢方薬は人工股関節術後あるいは外傷術後の下肢腫脹に対して有効性が示唆されているが、ACL 再建術後での有効性を明らかにするための RCT はなく、臨床的に有意義な論文と言える。柴苓湯投与群では腫脹の軽減だけでなく顕著な縮小が見られた症例が 2 例あり、今後の検討に期待の持てる結果であった。主要評価項目を疼痛の有無、関節可動域とした多数例での臨床試験による解析が待たれる。

12. Abstractor and date

小暮 敏明 2025.8.25